



# 全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 相澤健二／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎(03) 3263-0271  
ホームページアドレス／<http://zensyokyo.jp/>

**全消協  
第40回  
定期総会**

## 全消協結成の地「九州」で 総会を開催



2016年8月29日、福岡県福岡市「福岡国際会議場」にて、第40回全国消防職員協議会定期総会を開催、全国より439人の会員が出席した。本総会の開催地を代表して浦添市消防行政研究会の吉永靖氏、次期開催地を代表して新潟市消防職員協議会の今井修氏を議長団として選出し進行を務めた。

次に、この1年間で新たに仲間となった3単協各代表が壇上に立ち（標茶消防職員協議会小野寺会長、本別消防職員協議会阿久津副会長、箱根町消防職員スルアップ協議会高辻会長）、それぞれが協議会活動にむけた大きな志とともに単協紹介を行った。

2016年度活動経過報告、会計決算報告、会計監査報告と、2017年度の当面の活動方針（案）、予算（案）は、質疑を経て賛成多数で可決した。会計監査の役員改選は、木村洋邦氏（福山消防職員親和会）が退任し、長山誠氏（宇城消防職員協議会）が承認された。

### 近江会長あいさつ

本日は「多忙の中、残暑厳しい中、福岡にお集まりいただきありがとうございます。」と挨拶いたします。



全国消防職員協議会 会長 近江 孝之

はじめに、今年4月14日に発生しました熊本大地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。犠牲になられた方々と遺族に対しまして深くお悔やみを申し上げます。また、自らも被災者でありながら、救急、救助、消火活動に奮闘努力されました熊本・大分の仲間たちと緊急消防援助隊として派遣され各地から駆けつけて消防業務に尽力された仲間に対して心から敬意を表します。

2016年6月11日にL.O結社の自由委員会第378次報告が示されました。その中で、日本案件に関する中間報告並びに10回目の勧告が示されており、全消協は、自治労、PSI、公務労協などの関連団体と連携し、本来は労働者すべてに与えられている団結権を消防職員に回復する取り組みを、より強固に進めていきます。

本日、40回の記念すべき総会を結成の地「九州」で迎えることに大きな喜びを感じております。代議員の皆様におかれましては、総会の中でしっかりと議論していただき、先人たちがめざした団結権と、消防職員の地位向上に、歩でも近づけるよう、有意義な総会をお願いしたいと思っております。



3度目の尿路結石を体験する。今回は手術予定日まで痛み止めで調整できる余裕があったため「またか」といった印象だった。ただ、全身麻酔下で内視鏡を入れて直接取り除く術式を選択したため、4日間の入院を告げられていた。

予定時間内に2個の結石は取り除かれ手術は成功と伝えられた。しかし、術後より耐え難い強い痛みが続いている。坐薬と点滴でなんとか耐えられる痛みとなったが、わずかな体の動きでさえ激痛が走るため、まともに眠れない。翌朝、なぜ今も強い痛みが続くのかを担当医に聞くと、「痛みはあなたの体質によるものだ」と不機嫌な様相で答えていった。術後の検査には出ない、疼痛と、悲痛な叫びは担当医に伝わらず、予定日を2日過ぎての退院となった。

消防職場の悪質なハワハラ報道が後を絶たない。消防に限らずストレス社会に身を置く現代人であれば、ハラスメントは永遠のテーマであり対応はマニュアル通りにはいかない。ただ、解決まではいかなることも意識し理解しようとする努力は不幸を減らす。ハラスメントを知り相手の気持ちを考える。直接的な解決に繋がらなくとも、周りの気遣いは当事者の心の中を照らす一筋の光となり、希望を生み力になってあげられるのではないかと入院時を思い出す。あの時、担当医の態度が違ったとしても術後の痛みも入院期間も変わらなかつたらう。ただ、私の痛みにも少しも寄り添って来ていたら、「もう少し痛みを耐えてがんばろう」という希望が芽生え、痛みにも耐える時の励みとなり力となっていたと思う。

約5年周りで襲われる尿路結石。病気に対する慣れはあるが、あの痛みは経験したくない。食生活と運動による体質改善を心に決めながら、他人を思いやる心を育てていきたい。

三上高純（北海道プロック幹事）

全消協  
第40回定期総会

# 総会質疑のポイント

## 報告事項の質疑応答

● 会計の納入状況(未収金)について  
回答 総会資料表記は6月30日時点のもので実情に応じて納入をいただいている。現時点では解散に伴う1件の未収金のみである

● 3単協より活動方針案についての提言  
回答 分かりにくい部分、紛らわしい文言などについては、次年度の議案作成にあたり修正していく。多数あるご指摘についても文言整理を行い、次年度の活動方針をしっかりと作成する。

● 女性連絡会、ユース部の報告が40年祝賀会で行われることについて  
回答 本来であれば総会で行うべきであったが、行事進行の都合で祝賀会での報告となった。今回は女性連絡会報告、ユース部報告を総会内で行うなど、それぞれの活動に配慮していく。

● 緊急消防援助隊、災害等派遣勤務について  
回答 2015年12月15日民主党政政策議員懇談会の中で、緊急消防援助隊に関する条例化を具体的にかつ早急に設定してほしいとい

うことを、民主党(当時)の国会議員の皆様に講義し、総務省にも申し入れをしている。同一労働・同一賃金を主眼に置きながら、今後も民進党消防政策議員懇談会とおして、総務省消防庁へ働き掛けていく。

● 消防職員の健康診断について  
回答 2017年度の「消防行政の充実強化に関する要望書」の項目に健康診断の年2回実施を盛り込み、総務省消防庁へ要望を行う。

● 連合・自治労との連携、組織強化・拡大方針およびアクションプラン、無賃金拘束時間の解消へむけた取り組みについて  
回答 連合とは日本の労働組合の代表であり、自治労の川本委員長が連合の会長代行となっている。労働基本権についても自治労と日々話し合っており、労働組合の代表である連合をおしたILOへの働きかけも行っていた。

● 組織強化・拡大方針およびアクションプランについて、各プロックの実情を踏まえた活動をそれぞれ行っている。幹事会等での各プロックからの報告を何らかの形で伝えていく。

● 無賃金拘束時間の解消へむけた取り組みについて、人事委員会や

公平委員会への措置要求を申し入れる実情のあることは把握している。各単協から全消協へ相談をいただければ支援を検討する。国への取り組みとして、国会の場で無賃金拘束時間の解消にむけての質問等をしていただくよう民進党に働きかけている。

● P・SI加盟について  
回答 P・SIに加盟した2007年以後、民主党政権下で設置された「消防職員のあり方検討会」や2012年に閣議決定した「制度改革案」などの一連の流れに関係しており、加盟継続についてのデメリットはないと考える。

● 賃金労働条件改善への取り組みについて(夜間指定勤務の廃止、交替勤務者に休日の取り扱い、休日勤務手当の支給方法)  
回答 地域の実情に応じた取り組みが必要と考える。拘束時間は変わらずに勤務時間が短くなっている問題については、民進党を含め国会議員をおして申し入れを行っている。休日給については、全消協Q&AのQ17に提言している。各単協の実情に応じて、全消協としても支援をしていく。

● 組織強化・拡大方針およびアクションプランについて、各プロックの実情を踏まえた活動をそれぞれ行っている。幹事会等での各プロックからの報告を何らかの形で伝えていく。

● 無賃金拘束時間の解消へむけた

取り組みについて、人事委員会や



## 結成40年記念行事

### 第1部

# 記念式典

### ■ 近江孝之会長あいさつ

1977年8月、消防職員の団結回復と劣悪な勤務条件や消防制度の改善のため、自治労の全面的なご支援と36単協2500人の組織人員で、長崎県の出島会館において第1回となる設立総会が開催されました。現在は、198単協、1万3000人を超える組織となっており。

今日、この福岡の地で40年の記念の式典を開催できるのも、ひとえに先人達のご活躍と、これを後押ししていただいた自治労をはじめとする関係各位のご支援の賜物であります。この間、多くの困難に立ちむかい、消防職員の地位向上にご尽力された方々に深く敬意を表すとともに、心から感謝申し上げます。また、記念誌作成にあたり、快くご執筆していただいた諸先輩方に感謝申し上げます。

私は、2009年から全消協役員として迫会長、門間会長の下で6年間幹事を務め、現在は会長として重責を承っております。その間、2010年4月に消防職員の団結のあり方に関する検討会が発足され、迫会長が検討会の委員



総会終了後、同会場にて結成40年を記念し、およそ500人の仲間と歴代役員が全消協発祥の地である九州で、諸先輩方の強い決意と弛まぬ努力で全消協運動を展開してきた節目の年を祝う。

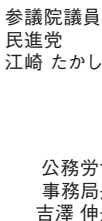
として国から選出されました。当時、本場に団結回復の届くところまで来ました。しかし、結果はご承知の通りです。現在の政局では、ふたたび団結回復が本格的議論になるには、まだまだ時間が必要です。しかし、団結回復のチャンスは必ず訪れる。権利回復を政府が了承するまで、全消協は組織強化拡大に取り組み、住民の命を守る政策を提言できる全消協運動を継続して推し進めていかなければなりません。全消協は今後も一丸となり、自治労、公務労協、P・SIと連携を深め、消防職員の権利拡大のために今後も活動を推し進めます。



衆議院議員  
社会民主党  
吉川 はじめ



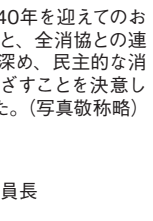
福岡県  
福祉労働部  
労働局長  
樋口 直樹  
(福岡県知事代理)



参議院議員  
民進党  
江崎 たかし



公務労協  
事務局長  
吉澤 伸夫



来賓より、40年を迎えてのお祝いの言葉と、全消協との連携を一層に深め、民主的な消防職場をめざすことを決意していただいた。(写真敬称略)  
自治労本部  
中央執行委員長  
川本 淳





総会・記念講演の間、2人の会員が託児所を利用しました



鳥越俊太郎氏

「消防における海外の労働事情と日本の違い」  
記念講演2



鈴木哲夫氏

「消防パワハラ自死遺族取材レポートと今後の政局への団結権働きかけについて」  
記念講演1



「熊本地震を教訓に、改めて住民の命と暮らしを守る公共サービスの役割の重要性を痛感しているところです。関係単組と連携し、しっかりと組織拡大に取り組んでいくことを決意いたします」

来賓あいさつ  
自治労福岡県本部



「朝から長時間にわたりお付き合いいただきありがとうございました。30年は札幌で開催された。その時に匹敵するような祝賀会になれば幸いです」

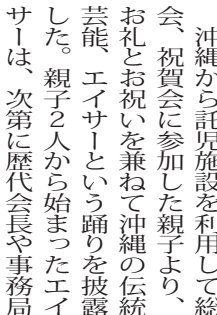


「女性だけのメンバーで、今年2月で結成20周年を迎えました。家事や育児をこなしながら私たちも40周年を迎えられるよう、太鼓の楽しさを伝える活動を続けていきたいと思

創作和太鼓の会「花鼓周」による演奏披露



熊本地震に緊急消防援助隊として活動いただいた皆様への感謝と震災カンパのお礼を述べ、40周年を祝し乾杯を行った。



沖縄から託児施設を利用して総会、祝賀会に参加した親子より、お礼とお祝いを兼ねて沖縄の伝統芸能、エイサーという踊りを披露した。親子2人から始まったエイサーは、次第に歴代会長や事務局

ユース部報告



女性連絡会の紹介、活動状況アンケート結果などを紹介。



歴代会長紹介・あいさつ



迫 大助 (大牟田市)

米田 晋 (函館市)

長も巻き込む形で大きくなり、会場全体が一体感に包まれた。



自治労本部 副中央執行委員長 袖谷 尚彦



中村 達也 (桑名市)



中村 義彰 (越谷市)



吉沢 弘久 (自治労本部)



門間 孝一 (川崎市)

# 第2部 記念祝賀会



# PSIビデオメッセージ ローザ書記長より

全文

## PSIは全消協の取り組みを支持します

PSI書記長のローザ・バヴァネリです。

全消協第40回定期総会の開催、おめでとございます。このような機会に皆様にお話しできる機会をいただき、大変光栄です。

2016年6月11日、ILO理事会は第2177号案件に関する「結社の自由委員会」報告書を承認いたしました。この案件は、2002年に連合によって申し立てられ、ICFTU(当時)およびPSIを含む産業別国際労働組織が支持したものです。今回出された通告は同じ案件に対する10回目のもので、委員会は日本政府に対し、日本が批准している第87号・98号条約に具現化された結社の自由原則を十分に尊重し、公務労働者に対する労働基本権を早急に保証することを再び求めました。とくに消防職員に関し、団結権と団体交

渉権を十分に付与することを日本政府に求めています。日本政府がこれほどまでにILOの勧告を無視し続ける本当の理由は何なのか、自問しております。

私たちPSIは、2千万人の同志と共に、皆様が「権利なき労働者」であり続けることを看過できません。PSIは、市民の生命と財産の保障にあたる消防職員の安全体制の確立をめざし、全消協の取り組みを支持いたします。また、PSIは、適切な人員配置、装備および訓練が重要と認識しております。PSIは近江会長の強いリーダーシップの下にある全消協と共にたまたかう準備はできておりません。

2016年10月、「第13回アジア太平洋地域総会」出席のため福岡を訪問します。皆様とお会いし全消協が抱える諸課題について、お話しできることを楽しみにしております。

ありがとうございます。

### 新規単協をご紹介します!

※「いちやりばちょうで」とは、沖縄の言葉で「一度会ったらみな兄弟」という意味です。



高辻 福太郎 会長



### 箱根町消防職員スキルアップ協議会

## 消防職員の資質向上に努め、住民への信頼を得ることをめざします

箱根町は神奈川県南西部に位置し、東京から約80キロメートルに距離があり、北は南足柄市、東は小田原市、南は湯河原町、西は静岡県3市2町と接しています。また、富士火山帯に属する箱根火山によって形成される典型的な複式火山で、その地形は複雑をきわめ、その中に河川・湖沼・草原を配した一大自然美を展開しています。

箱根町消防職員スキルアップ協議会は、今まで諸先輩方が築き上げた職場環境を守り続けるとともに消防職員としての資質の向上並びに倫理の徹底を図ることによって、住民から信頼される消防官を育成することをめざします。また、会員の相互扶助の精神に基づく親睦と信頼のもとに連携を深め、民主的な活動により明るく健全で魅力ある消防職場環境づくりに貢献したいと思っております。小さな消防署ではありますが、箱根町から新しい風を全国に発信できるように、頑張っていきたいと思います。よろしくお願い致します。

